

鈴鹿市障害福祉サービスの質の向上、人権擁護について

(質問) ①鈴鹿市障害者生活介護施設ベルホームのサービスが低下しているとの利用者の声を聞く。継続利用を希望していた重度障がい者の方が昨年9月に利用を断られ、それに合意せざるを得なかった。現在は毎日津市内の施設に保護者が車で3時間をかけて送迎し、費用は以前

より3万円相当の負担増となった。ほかにも2件の声がある。障害者基本法の制定、改正や鈴鹿市の人権方針・人権尊重都市宣言に逆行すると考えるがいかがか。

(答弁) 支援困難ケースへの対応方法としては、関係者によるケース会議を開催し、対応策を協議してできる限り利用継続のための取り組みを行っている。利用再開を希望する場合は、必要に応じてケース会議などで検討を行う。

その他の質問 ○総合計画2023の後期基本計画策定について ○ひきこもり対策について

本市の企業誘致について

(質問) 企業誘致促進プロジェクトについて、企業誘致を促進するためには、戦略的な企業誘致活動が必要である。これまでに企業誘致を促進させる官民一体プロジェクトチームが結成されたことはあるか。また、企業誘致に対して市が一丸となって各部署が力を合わせて取り組むことは必須だと考えるが、各部署間の戦略など

はいかがか。

(答弁) 本市には、正式にそのようなプロジェクトチームを立ち上げた事例はない。しかし、スピーディな企業誘致を達成するためには、本市と事業を担う民間事業者などが連携していく必要がある。今後は、本市の農林担当、都市整備部、三重県の関係部署、民間事業者などと官民一体となって企業誘致を積極的に推進する。

その他の質問 ○本市と体育協会について

学校における水泳指導について

(質問) 小中学校にあるプールは、老朽化が進み、維持管理が困難になってきている。また、プールがない学校もある。新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」では、学校教育を学校内に閉じず、社会と共有・連携しながら実現することとある。民間施設などを活用して維持管理費を削減するほか、教職員の負担

軽減、指導内容のスキルアップに、民間指導員を取り入れることができないか。

(答弁) 今後、老朽化した全てのプールを更新していくには、財政的に負担が大きく、中学校の施設廃止も含め、今後の方向性を決めていきたい。小学校は基本的に各校での実施が望ましいが、中長期的には、小学校のプールの存続も困難であるため、さまざまな水泳指導の在り方について検証を始める。

その他の質問 ○特別支援学校について

「骨太の方針2019」について

(質問) 政府が毎年、経済政策の方向性を示す「骨太の方針」。今年は例えば、「人生100年時代の安心の基盤は『健康』である」として、積極的に介護予防や健康づくりを進める市町村に交付金を配分する「保険者機能の強化」策を打ち出し、給付費抑制に向けて自治体間での競争を促している。本市の考えを問う。

(答弁) 鈴鹿亀山地区広域連合では全国や県平均と比べ、介護保険の給付額や認定率が低く抑えられている。本市では現在、伊勢市も参考に「自立支援型地域ケア」を進めているが、今後はフレイル対策などの介護予防事業や、稲生地区地域づくり協議会をモデルに住民主体による生活支援への補助を拡大する。また先日、高齢者の医療保健事業と介護予防の一体的な実施が閣議決定されたため、一人一人にきめ細やかに対応すべく、本市でも制度間での連携を密にして取り組む。